

# 重症患者退院後の評価・アプローチ ～コンセンサスに基づいた必須事項とは～

崎元直樹\*

\*市立三次中央病院リハビリテーション科

2016年10月末にMajor MEら<sup>1)</sup>によって、重症疾患患者の退院後のリハビリテーション・理学療法に関するコンセンサスが発表された。重症疾患患者の理学療法のゴール、推奨される測定ツール、最適な理学療法介入の構成について調査が行われている。

この論文中では図1のようにコンセンサスに基づいた重症疾患後の理学療法の枠組みについて提示されている。15の項目に関する必須の引継ぎ情報に加えて、アウトカムは運動能力、骨格筋力、日常生活活動機能、運動能、生活の質と痛みを検査しなければならない。また、理学療法介入の構成要素としては四肢と呼吸筋のた

めの機能訓練、サーキットや持久力トレーニング、筋力強化トレーニング、回復に関する教育、栄養的な要素を含まなければならない。そして、機能障害を確認するスクリーニングツールの使用や専門医への紹介が推奨されている。

今後はこの枠組みを用いて、実現可能性の評価、リスクの層別化ツールの開発や重要なアウトカムの確認がなされることに期待したい。

## 文献

- 1) Major ME, et al. Surviving critical illness: what is next? An expert consensus statement on physical rehabilitation after hospital discharge. Crit Care. 2016; 20: 354.

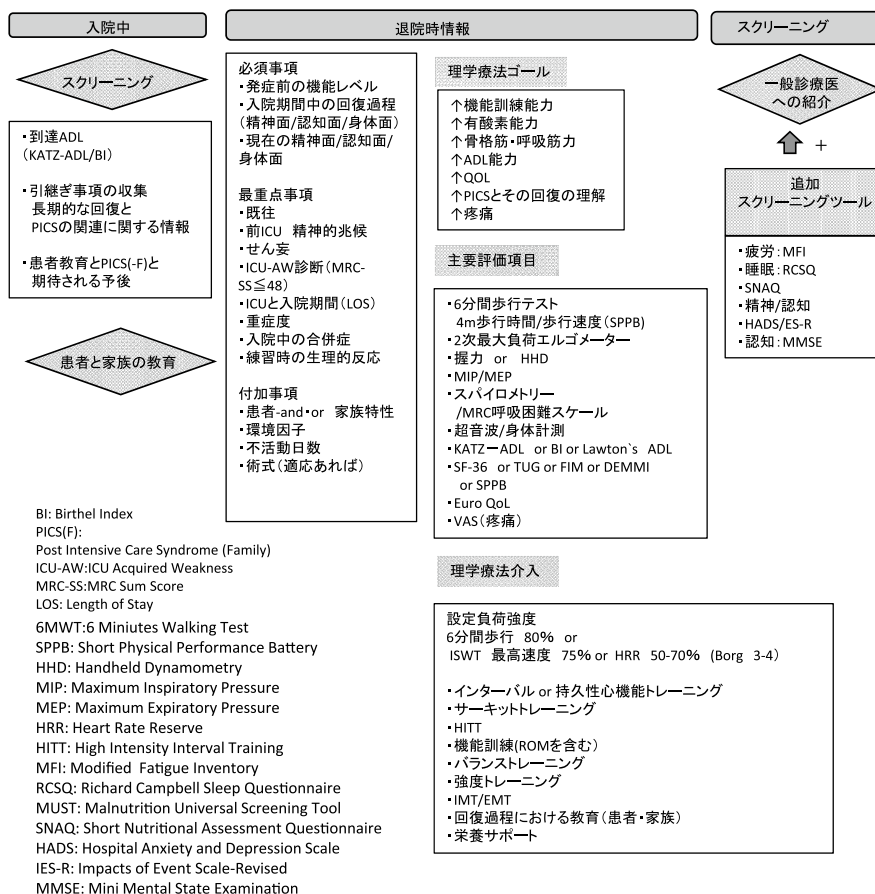


図1 コンセンサスに基づいた重症疾患患者退院後のアプローチに関する枠組み